

# 碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可  
 神奈川 碩心会 発行

現在会員数  
 7月地区 148名  
 7月地区 294名  
 7月地区 63名  
 (合計) (505名)

58年7月号 (132号)  
 発行 者 萃  
 根 岸 岳  
 編 集  
 中 村 愛 岳

吟詠芸術向上と大衆化への道拓く

## 木村 岳風 (3)

長野県本部長 竹ノ内岳宗  
 岳風流の充実を計る

こうした朗吟行脚の傍ら、先生が専念されたのは、江戸時代から伝承される各国の各種吟法で、熊本の後流、聖堂流、時習館流、福岡の南流、大分の淡窓流、荻の玄瑞流、山陽流などの諸流派の真隨に触れて、その長所を取り入れ、岳風流の充実を計ることである。

そして吟交わり、最高音位の吟、半高音の吟——多彩の吟法を編み出され会の充実がいよいよ高まってきた。

先生の遺吟レコードに納まっている「書懐」「偶成」「逸題」「国体編」「正氣の歌」「吉次峠の戦」などの朗吟は、長く人々の魂を揺り動かしただのである。

先生は、吟が強く激しいのに比べ、日常の生活態度は極めて優しく、そしてまた、何もかも民主的に相談して決められた。

吟を始めるとき、「今日は私と詩吟の稽古を始めましょう」と申され、決してご自分の吟法の押し売りはなされなかった。また、「朗吟のプロは、私一人ではない。

決してあとを継がないように」といわれていた。アマチュアに徹するようという遺訓である。朗吟の純正を望まれたのである。

さらに、先生は小学生時代より、国語・書き方(書道)・唱歌(音楽)に堪能であった。

小学校六年のとき、県下いっせいの学力テスト(算術・国語・理科・歴史・地理の五課目)があったが、クラスの五、六番目という成績(六年生四クラス・一クラスあたり五十人)で、後年漢詩を作り、和歌を作り、多くの遺作を残されているのは偶然ではない。

遺作は、「伝記」「岳風先生詩歌集」に集録され、遺芳を放っている。

いま、歌碑に刻まれ、菩提寺地藏寺の墓畔に建立されている辞世の和歌——

わが墓は地藏寺山の見階台  
 風吹くたびに松の吟声

は、傑出した一首であり、書も書道の先生から推称されている一書である。

俳句は、同じ諏訪市の宗匠、山田世外先生の句会にて天位に選ばれた秀句と、昭和十五、六年ごろ作られた不動尊夏祭りに献燈された絵行燈の句——

暑き日の中にも今日のおつさかな

が残っているが、これは秀句ではない。しかし、山田宗匠選の天位の句――

霖雨あまのりや栗の花浮く涼

は、天下の秀句であり、「涼」という難しい文字は、「溜り水」または「わたみず」と読み、初心者にはちよつと解りかねる字であるが、先生は二十歳ごろに、この字を使った。

(以下次号につづく)

◇筆者竹ノ内岳宗先生は木村岳風先生の竹馬の友であり、この原稿は松井岳洋先生を通じて連載させていただきます。

## 私の健康法

滝の坂支部 加藤 聖風

「あなたは健康の為に何をしていますか?」、これは新聞・雑誌等のアンケートによく見かける質問です。するときままつて、「毎朝ジョギングをしています」、「なわとびをします」、「テニスをしています」等々の答が多いようです。これらはそれぞれ素晴らしい事です。

健康法とは、各人がこれと思う事をずつと続けるところに生まれるのです。「病は気から」と云われます。これは病気にかかるとその人の気持次第であるという事です。同時に健康でいるのも本人の気持次第

第一という意味がかくされているのだと思います。ですから、ジョギングは自分の健康に一番よいと思つて続けるのでしたら、これ以上素晴らしい健康法はないと思います。たゞこれは、長く続ける事に効果があるので、二、三日だけというのは、あまり意味が無いでしょう。健康の為に煙草をやめると云う人に会いますが、これも同様に、二、三回やめたのでは本当にやめたくちに入らず、ずつと禁煙を続ける事により始めて健康が生まれてくるのです。

さて、これと云つてスポーツをしていない私の健康法はといふと、「詩吟」と答える事しております。詩吟に於ける腹式呼吸は胃腸の為に大変いゝようですし、大きな声を出す事により、ストレスの解消にもなり、又血液の循環がよくなり、心臓も丈夫になるようです。最近では風邪も引きにくくなり、また万引いてもすぐによくなりません。

このようによい事づくめの詩吟です。今後の信念を持つてずつと続けてゆけば、健康間違いなしだと思います。

皆さんの健康法はいかがですか?

### 横須賀第二地区大会

#### 合吟コンクールに入賞

六月十二日、鎌倉市中央公民館分館にて行われた右大会に、逗子地区の左の方々十名のチームが見事一位に入賞しました。

村田静風(逗子A) 広瀬翔風(桜山A)  
西村昌風(桜山A) 綾部秋風(逗子A)  
磯村朋風(逗子B) 石渡啓風(逗子A)  
三壁照山(銀 詠) 重松由風(真 澄)

森 晴山(真 澄) 菊池祐山(真 澄)  
尚三位に、桜山A、五位に下山口支部が入賞されました。

#### 第10回県本部青少年吟道大会

#### 合吟コンクールに入賞

六月二十六日、防大中講堂に於て行われた右会に堀内支部F組の三名のチームが見事一位に入賞しました。

高井 環(六年生) 矢島美奈子(五年生)  
矢島 且(五年生)

#### 秋期審査会のお知らせ

とき。九月十八日(日) 十時より  
ところ。逗子図書館ホール

教場だより

横警支部

新井 金衛

### 生いたちの記

早いもので、碩心会に横警支部が発足してから一年三カ月経ちました。

昨年三月二十日、横須賀警察署の四階講堂に、会長根岸岳幸先生、並びに中村愛岳先生の御臨席を頂き、盛大に発会式が行なわれたのが、昨日のような気が致します。

当横警支部は、指導者に小形雄山先生（堀内支部D組所属）及び鈴木幸山横警支部長の指導のもと、勤務終了後の夕方或いは当直明けの非番日に練習に励み、昨年九月、最初の昇段審査に初段三名、二段一名の合格者があり、今年度三月の昇段（伝）審査には、初段二名、二段二名、初伝二名の合格者を出し、益々意気盛んなものがあります。又、去る六月五日逗子市立図書館ホールで開催された第八回吟道温習会では合吟コンクールに出場し、抽選の結果一番最初に出吟する等、練習不足ではあるが、このような行事に出場出来るようになったことは、日頃の諸先生方の御指導のためものと、一同深く感謝して喜んでおります。

横警支部は発足して日も浅いので、充実した支部育成のためには他支部との交流を

密にする必要があると考え、今年度春の昇段（伝）者の合格祝と支部相互間の融和と親睦を図るため、去る六月二十八日、中村幸岳先生宅において、会長根岸先生の御列席を得て、堀内支部D組の方々と合同の懇親会を開催しました。女性は「富士山」、男性は「九月十三夜」を合吟の後、両支部の男性が一人一吟つつ独吟をやり、最後に根岸先生の雄壮で深みのある「本能寺」を披露していただき、その後はカラオケ等で一同楽しく時を過ごし散会しましたが、今後共、横警支部発展のため碩心会員の皆様方の絶大な御指導と御支援をお願いする次第です。

堀内支部では七月の教材として、根岸先生から「訣別」と、将に東遊せんとして壁に題す”の指導を受けた。新教本には作者の説明がないので、自分なりに資料により勉強、まとめてみることにした。

梅 田 雲 浜

（文化一―安政六）一八一五―一八五九（46歳）幕末尊攘派の志士、若狭小浜藩士。名は源次郎、朱子学を学び、安政年間京都に塾を開いて子弟を教えた。幕府批判により、追放されて浪人となり、尊王攘夷を唱

え、將軍継嗣問題では、一橋派に属し、大老井伊直弼排斥を企て、安政の大獄の際捕えられて獄中で病死した。

君が世を 思う心の一寸じに  
わが身ありとは思わざりけり（雲浜）

釈 月 性

（文化一四―安政五）一八一七―一八五八（42歳）幕末勤皇僧。周防（山口県）妙円寺住職。字は知円、清狂と号した。学問に励み、十五歳郷を出で詩を学び、仏道を修め、外夷の国を犯すことを憂い、佛法を以て国民の心を起し、困難にあたるべしと説き、熱涙を流して民に訴えた。吉田松陰と親しく、月性の憂国の熱弁、藩内尊攘派の志気を鼓舞した。安政三年春、本願寺門跡に招かれ京に上り、東山別院に寓居した。梅田雲浜、梁川星巖、頼三樹三郎らと交流、朝権の恢復、幕政の匡救をはかり、また紀伊藩に赴き、海防急務策を説いた。安政五年、幕府本願寺主に命じて蝦夷布教のことを諮問、寺主月性をして赴かしめんとし、まさに発せんとしたが、幕府の忌避するところとなり果さず、たまたま郷里の母病むと聞き急拠国に帰る。しかるに月性自ら病にかゝり、この年五月急逝した。

（愛岳記）

対句

漢詩には三千年近い歴史があり、対句はその中にちりばめられているかがやきです。必ず二行であり体裁も意味も対になっています。

- 1. 国破れて山河在り 城春にして草木深し  
(春望) 唐 杜甫
- 2. 時に感じては花にも涙を濺ぎ  
別れを恨んでは鳥にも心を驚かす  
(雑詩十二首) 其一 晉 陶潜
- 3. 盛年重ねて来らず 一日再び農なり難し  
(春夜) 宋 蘇軾
- 4. 歌管楼台声細々 鞦韆院落夜沈沈  
(静夜思) 唐 李白
- 5. 頭を挙げて山月を望み  
頭を低れて故郷を思ふ  
(胡隱居を尋ぬ) 明 高啓
- 6. 水を渡り又水を渡り  
花を看還た花を看る  
(古詩十九首) 其十五 漢 無名氏
- 7. 去る者は月に以て疎く  
来る者は日に以て親し  
(月下独酌) 唐 李白
- 8. 我歌えば月徘徊し 我舞えば影零乱す

- 9. 浮雲遊子の意 落日故人の情  
(友人を送る) 唐 李白
- 10. 今年花落ちて顔色改まり  
明年花開くも復た誰か  
(絶句) 唐 杜甫
- 11. 兩箇の黄鸝翠柳に鳴き  
一行の白鷺青天に上る  
(雪) 唐 白居易
- 12. 雪は驚毛に似て飛んで散乱し  
人は鶴髪を被て立って徘徊す  
(香炉峰下新に山居をトし草堂初めて成る偶東壁に題す) 唐 白居易
- 13. 遺愛寺の鐘は枕を敲てて聴き  
香炉峰の雪は簾を撥けて看る  
(左遷せられて藍関に至り姪孫湘に示す) 韓愈
- 14. 雲は秦嶺に横たわりて家何くにか在る  
雪は藍関を擁して馬前まづ  
逗子A 村田静風記

訃報

滝の坂支部長の宮寺康山さんは、病氣療養中のところ六月二十二日永眠され、御霊前に奥伝免許(康風)が追贈されました。御冥福を祈ります。

- (入会) 589 新井順子 逗子市山ノ根二一四一六 (真澄) (電)〇四六八一七三七一四
- 590 鈴木みづ子 逗子市沼間二一三三四 (沼間) (電)〇四六八一七一〇八三一
- (退会) 190 宮寺康風(滝の坂死亡) 434 藤本勝久(堀内D)
- 504 秋元正夫(沼間) 586 中根典朗(堀内D)

短歌



けたたましく サイレン鳴らし救急車  
遠のきゆけり 憂いのこして  
植えましし 夫は逝けども紅の  
薔薇は年々 数増して咲き  
水底に 沈みてダムとなるという  
部落に桐の 花咲きており  
風早支部 長島玉風